

《札幌市手稲区保護司会会長賞》



見えない傷

新陵東小学校 6年 千葉 美憂

私は、北海道や他の地方のいじめが原因の自殺の事件の話をきいて悲しい気持ちになりました。「どうしてこの子はいじめられていたのだろう」、「どうしたらいじめが減るのだろう」と考えました。

私は四年生の時にいじめられていました。

私は、周りの皆が着ているような服ではなくて、オシャレな服が好きでよく着ていていました。皆とは違う服を着ているからか、朝、学校に行くといつも数人でコソコソ話をしていたまに話の内容がきこえてくる時もありました。それを聞くたびに悲しい気持ちになり、学校に行くのが辛い時もありました。もちろん、泣きたい気持ちもありましたが、その気持ちをかくしながら生活していました。なぜなら、親に心配をかけたくなかったからです。

それから、相手にやられて泣いてしまったら自分の負けになり、相手の勝ちになってしまうからです。しかし、人にも我慢の限界があります。そこで泣いてしまったり、おこってしまったたり、人それぞれです。

ある日、いじめが原因で自殺してしまった中学生のニュースを目にした時に、「いじめが原因で自殺しちゃう子もいるんだな」と思いました。そして、亡くなってしまった中学生の母が語ったことが心にささりました。

「今いうことを理解してくれるとうれしいです。いじめられている皆さんが負っている傷はすぐに治るものではありません。きっと、深くて一生心に残る傷です。普段ケガをしてしまっても、たくさん食べてたくさんねれば治りますが、いじめという傷は一生治らない傷です。いじめられている子が亡くなってから後悔しても、もうおそいのです。

このことを理解したうえで反省してくれたらなと思います。」この子の母が言っていることは間違っていないと思います。

たしかにその子が亡くなってからではもうおそいのです。どんなにその子の友達が会いたがっていても、どんなにその子の両親が、「私達の子が戻ってきますように」と強く願っても、もう会えないのです。

私は、皆は幸せなんだと思っていました。でも、本当は違いました。いじめられて辛い人、我が子を失い辛い人。幸せではない人もいることに気付きました。

そして、我が子を失った人の中にはいじめていた本人、その子の親をにくむ人もいます。でも、にくんでもいいことはありません。にくめば我が子が戻ってくることはないのです。いじめを減らすためには、いじめられている子を見つけたらそのままにしておかず、その子を助けてあげる、先生に相談するなどをする事で、いじめが減り、いじめのない明るい社会へとつながると私は思います。

